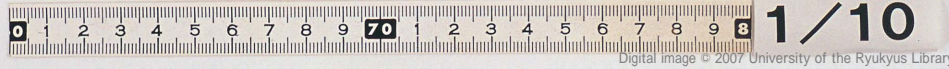


611.24  
UR

昭和八年五月

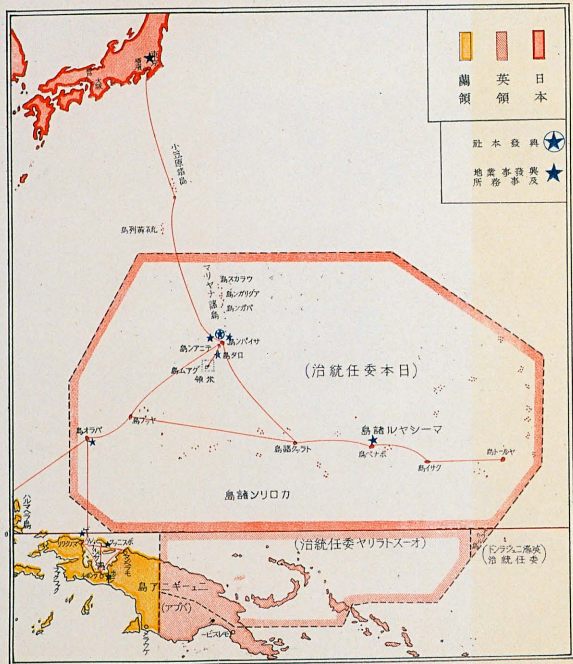
裏南洋開拓と  
南洋興發株式會社の現況



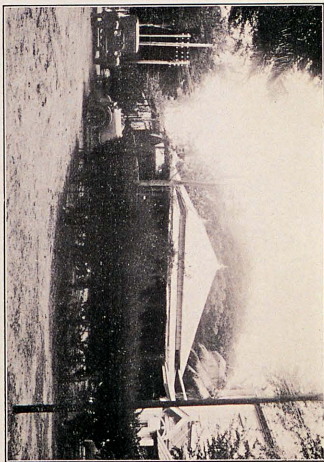
南洋興發株式會社の現況

裏南洋開拓と  
南洋興發株式會社の現況

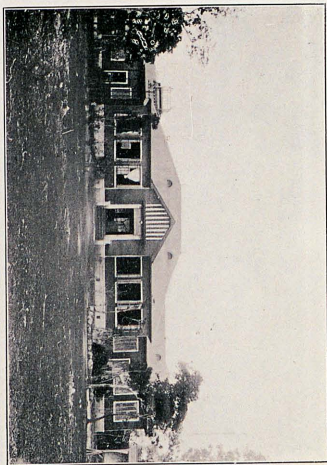
南洋要地圖

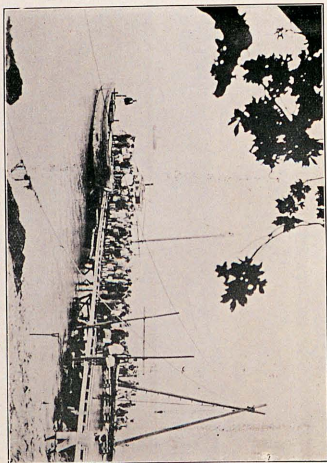


佐藤事務所繪製ノバイサニ並駐木

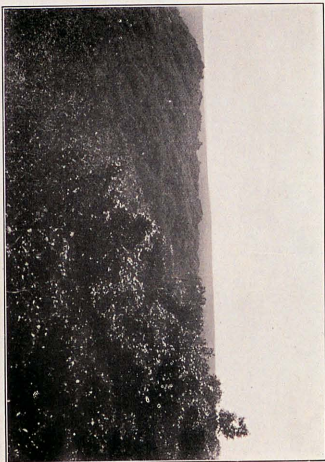


室防事務所韓國ソフニヤ





(船棧假ッアニヲ、一陸上、底移) 一其拓開

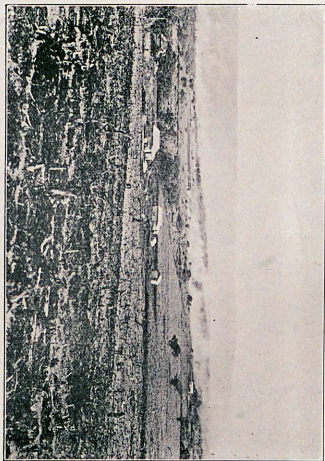


(望遠ノ地盤表) 二其拓開

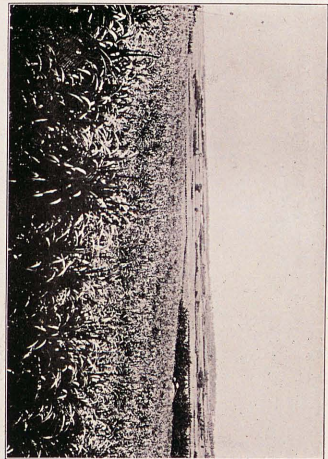


(節内ノ地型木) 三其拓開

(ソノエラー設置ノ宅主人作小ト物鏡ノ後景) 四共拓開

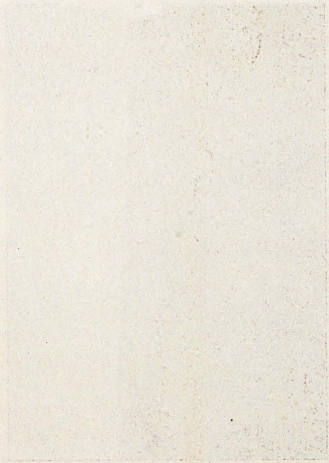
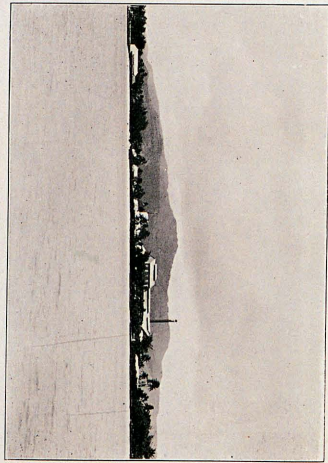


四共拓開 (後景ノ小ト作人ノ宅)

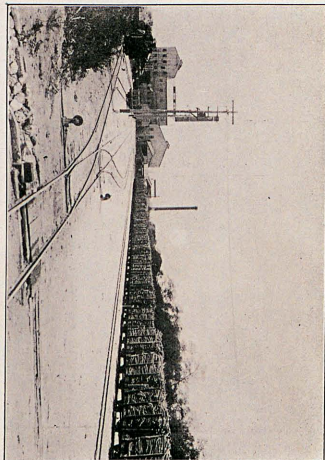


(第一ノ巻第一ノページノサ一園並列成) 五其拓開

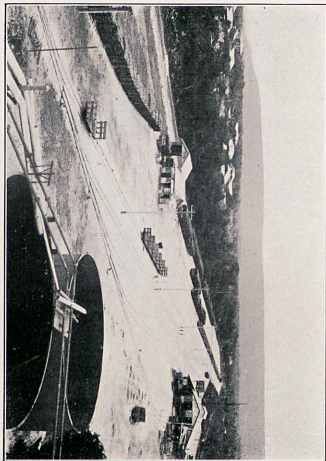
工部ノ新築（カ）工部



(船エントランス) 入船ノ面甘ト内線船工

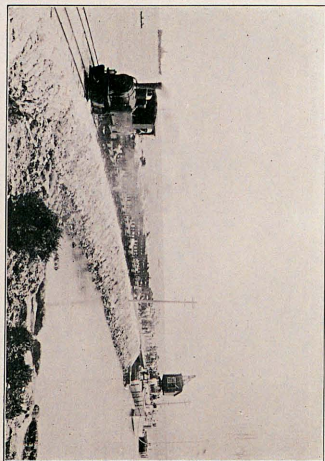


SHANSHAN RIVER



(4) 第三ノ階工ノアニテ 部一ノ地宅社ニ並置鐵内構

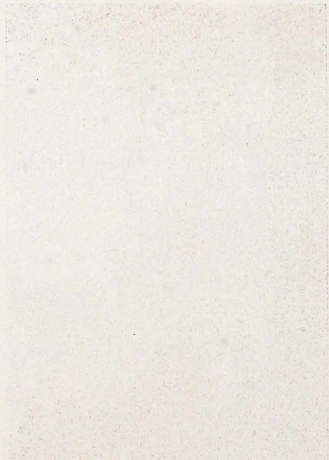
(橋本マニア) 出資機



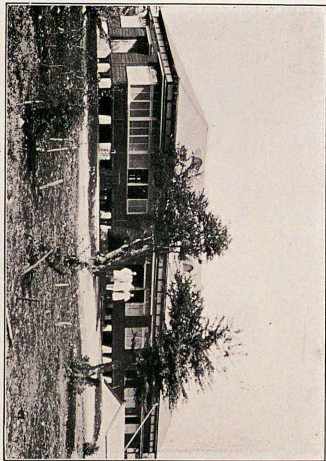
(馬牧ローヌナ所繪圖ペアニヲ) 馬牧

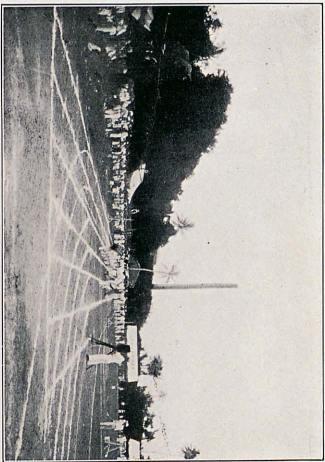


室移醫局附所繪圖ノルイサ



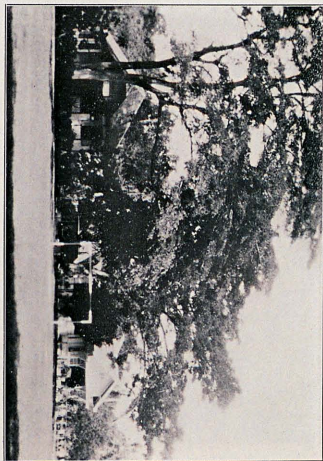
ニラソフ館附屬舎





米軍上陸抗身所横須賀ニテ・ソバイカ

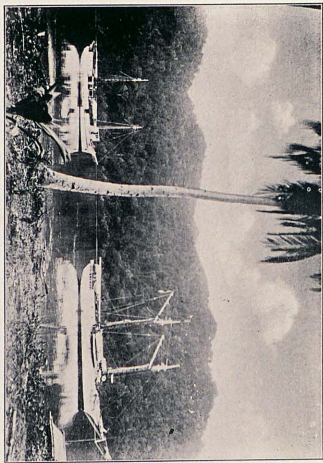
(フニキエエニ北) 所務事社富リツクノモ府官





(アニアユニ北) 樹ノバコムガルス生密ニ地業事社當

(大・小・大) 船 註



# 裏南洋開拓と南洋興發株式會社の現況

## 目 次

- 一、會社成立の経緯
- 二、資本と株式
- 三、事業地
- 四、事業の種類
- 五、事業概況
- 六、社會的施設
- 七、事業の將來
- 八、本群島の產物と内地との經濟關係
- 九、重役及幹部社員

- 八、海軍及海軍施設
- 九、海軍の發展
- 十、海軍の發展
- 十一、海軍の發展
- 十二、海軍の發展
- 十三、海軍の發展
- 十四、海軍の發展
- 十五、海軍の發展
- 十六、海軍の發展
- 十七、海軍の發展
- 十八、海軍の發展
- 十九、海軍の發展
- 二十、海軍の發展
- 二十一、海軍の發展
- 二十二、海軍の發展
- 二十三、海軍の發展
- 二十四、海軍の發展
- 二十五、海軍の發展
- 二十六、海軍の發展
- 二十七、海軍の發展
- 二十八、海軍の發展
- 二十九、海軍の發展
- 三十、海軍の發展
- 三十一、海軍の發展
- 三十二、海軍の發展
- 三十三、海軍の發展
- 三十四、海軍の發展
- 三十五、海軍の發展
- 三十六、海軍の發展
- 三十七、海軍の發展
- 三十八、海軍の發展
- 三十九、海軍の發展
- 四十、海軍の發展
- 四十一、海軍の發展
- 四十二、海軍の發展
- 四十三、海軍の發展
- 四十四、海軍の發展
- 四十五、海軍の發展
- 四十六、海軍の發展
- 四十七、海軍の發展
- 四十八、海軍の發展
- 四十九、海軍の發展
- 五十、海軍の發展
- 五十一、海軍の發展
- 五十二、海軍の發展
- 五十三、海軍の發展
- 五十四、海軍の發展
- 五十五、海軍の發展
- 五十六、海軍の發展
- 五十七、海軍の發展
- 五十八、海軍の發展
- 五十九、海軍の發展
- 六十、海軍の發展
- 六十一、海軍の發展
- 六十二、海軍の發展
- 六十三、海軍の發展
- 六十四、海軍の發展
- 六十五、海軍の發展
- 六十六、海軍の發展
- 六十七、海軍の發展
- 六十八、海軍の發展
- 六十九、海軍の發展
- 七十、海軍の發展
- 七十一、海軍の發展
- 七十二、海軍の發展
- 七十三、海軍の發展
- 七十四、海軍の發展
- 七十五、海軍の發展
- 七十六、海軍の發展
- 七十七、海軍の發展
- 七十八、海軍の發展
- 七十九、海軍の發展
- 八十、海軍の發展
- 八十一、海軍の發展
- 八十二、海軍の發展
- 八十三、海軍の發展
- 八十四、海軍の發展
- 八十五、海軍の發展
- 八十六、海軍の發展
- 八十七、海軍の發展
- 八十八、海軍の發展
- 八十九、海軍の發展
- 九十、海軍の發展
- 九十一、海軍の發展
- 九十二、海軍の發展
- 九十三、海軍の發展
- 九十四、海軍の發展
- 九十五、海軍の發展
- 九十六、海軍の發展
- 九十七、海軍の發展
- 九十八、海軍の發展
- 九十九、海軍の發展
- 一百、海軍の發展

日 大

## 莫南開拓と南洋興發株式會社の現況

### 莫南洋開拓と南洋興發株式會社の現況

#### 一、會社成立の経緯

大正三年世界大戰勃發するや、我國は聯合與國として參戰し、我海軍は獨逸東洋艦隊を驅うて莫南洋群島を占領し、之に軍政を布けり。當時恰も内地財界は頗る好潮時代に在りしを以て、企業家にして此の新占領地に渡航し、各種の事業を計畫し、或は其實行に着手するもの甚だ多く、其等の内當社の成立に關係あるものは、西村拓殖株式會社及南洋殖産株式會社にして、兩社は何れもサイパン島に於て製糖又は棉花栽培を目論見たるものなり。

而して兩社共第一着に製糖事業に手を染め、先づ其蔗作に必要な移住者を内地より招致し、諸般の設備を整へて事業を開始したれども、遺憾ながら成功を見るに至らざりき。其の原因として數へらるゝは第一舊式の赤糖工場なりしため生産費大なりし

こと。第二共の製品は外國領土の產品として内地に於て關稅を賦課せられたること。第三初めより資金難に苦み意の如く活動出來ざりしこと等にして、萬里の波濤を超えて努力せし事業も意氣昂らず、加之彼の大正九年に於ける財界の恐慌に遭遇して以來は兩社の金融全く梗塞し、爲めに事業も殆ど休止の状態となり、次いで全く拋棄の止むなきに立到りたり。其の間偶々原料政策に苦みつゝありし臺灣糖業界の雄、大日本、東洋、明治、鹽水港の諸會社は好況に乘じ、事業の發展を計る可く南洋諸島に社員を派し調査を重ねたるも、右西村拓殖、南洋殖産同様の事情と更に島嶼小にして大組織工場建設の不利にして且事業開始するも勞働者の需給其の他の關係より、農場鐵道方面に不利多くして經營困難なるべしとの事由により何れも考慮中なりし折柄、糖價暴落、財界の不況は益々惡化し、金融梗塞其の極に達し、臺灣諸會社も最早や各々其の本城を死守するに急に於て、他を顧るの餘裕なきに至り、斯くして千名に近きサイパン島の移住者は其の日の食糧にさへ窮迫し、一滴の醬油さへ無く、海水を以て之に

充つるの慘狀を呈するに至れり。加ふるに島民の主食物たる椰子は、貝殻虫の被害を蒙り殆ど全滅となり、生活資源は全く杜絶し、窮況見るに忍びず全く前途暗澹たるに至り西村拓殖並に南洋殖産兩社の事業が速かに復活するか、然らざれば新事業を興すにあらざれば住民全體は生活の危機に陥ること、なれり。

兩社は局面の展開を計るを急務として各方面に奔走せり。然れ共財界不況の底に陥りたる際として、二百三十萬圓の負債を負へる兩會社を繼承するものなく、徒に日を經るに過ぎず、茲に於て南洋廳は統治上より見て之が救済策として唯單に移民を歸還せしむるは妥當ならずとし、中央當局に斡旋し、遂に東洋拓殖株式會社之が積極的救済に當ることとなりたり。

初め東洋拓殖に於ては、是が救済たるや多大の犠牲を拂ふの覺悟を要し、事業の着手には尙相當時機を計るを策の得たるものとの見解を有せしも、前述の如く事態は頗る切迫し、事全局民の安危に關するのみならず、惹いては委任統治の成績にも係り、

此時機を逸せんか由々しき社會問題を誘起せしむる虞あり、更に統治の根底に觸るゝ事態なしとせざるものあるを以て、同社は南洋廳の存意を諒とし、犠牲を忍び直ちに事業着手を敢行するに至れり。此時恰も移住者は其食糧缺乏の極に達し將に飢餓に瀕せんとする状態なりしを以て、同社は不取敢食糧米の供給を爲すと同時に、一面社員を派して實地調査を行はしめたり。

調査の結果成案を得、茲に南洋廳の特別援助の下に西村拓殖及南洋殖産兩社の權利を繼承し主として東洋拓殖の投資により南洋興發株式會社は成立する事となれり。

## 一、資本と株式

資本。西村拓殖は當初公稱資本金五百萬圓内拂込高百五十萬圓を以て創立せしが大正十一年一月東洋拓殖の救済に當り、資本金五十萬圓全額拂込に減資せる上南洋興發株式會社と改稱し、同時に南洋殖産の事業一切を金五十萬圓を以て買收繼承の上、

資本金三百萬圓に増資し、全額拂込とせり。而して右三百萬圓六萬株の内東洋拓殖引受の四萬四千株は新規投資に係るものなるも、他の一萬六千株は西村拓殖及南洋殖産より繼承せる權利及施設に充用せられたるものにして前者を甲種株、後者を乙種株とし乙種株に對しては當會社が積立金四十萬圓に達し且新規投資に依る甲種株四萬四千株に對し、一割二分以上の配當を爲し、尙剩餘ありたる場合に於て配當を爲すの制限を附したるも、昭和三年三月此乙種株の整理をなし、他の株式と同一内容の株式八千株を發行したる爲、資本金二百六十萬圓全額拂込となりたり。

之より先東洋拓殖の投資に依る會社の誕生に際しては其新規投資額四萬四千株、二百二十萬圓の内より、南洋殖産買収金の内現金を以て交附せる二十萬圓を差引き僅に二百萬圓の内より更に舊西村拓殖より引受けたる債務等を控除する時は殘餘幾何もなく、依て東洋拓殖より二百餘萬圓の長期借入をなし、之を以てサイパン島の事業に着手したるものなり。而して昭和三年テニアン島事業開始に當り、社内餘裕金を以て所

要資金に充當せるの外、更に東洋拓殖、安田信託等より二百三十萬圓の借入を爲したるも、昭和五年四月資本整備の必要を感じ、新に四百四十萬圓八萬八千株の増資をなし、主として前記テニアン工場建設に依る借入金を一掃したり。

其後サイパン島並にテニアン島に於ける製糖事業は順調なる發展を遂げ昭和七年よりは更に蘭領ニューギニアに事業を開始し群島内に於てはバラオ並にボナベ兩島にも調査員を派遣して澱粉事業を計劃するに至り南洋開拓の本來の使命達成に躍進すると共に、この機に際して事業經營の基礎を確固たらしむる爲昭和八年三月更に一千三百萬圓の増資をなし公稱資本金二千萬圓となりたり。

### 三、事業地

南洋群島内に於ける當社の事業地はサイパン、テニアン及ロタの三島を主とし更にボナベ及バラオの兩島に亘り、其借地面積の合計は約二萬町歩に及ぶ。此群島の地層

は概ね火山性隆起珊瑚礁より成り、大部分未墾地にして、一部既墾地も其年數淺く、窒素、磷酸及石灰分豊富にして地味甚だ肥沃なり。

氣候は勿論暑氣高きも、時々驟雨の襲來により涼風一過之を調節し、殊の外凌ぎ易し。又一年は雨期と乾燥期とに分れ、雨期は凡そ七月より十一月迄の間にして、此期間には作物の耕種と成長とに適し、乾燥期に於ては之が收穫並に工場作業に甚だ便利なり。誠に天恵の豊かなるに感謝すべく、此のために事業遂行上受くる利益は計算を絶するものあり。

南洋群島は往時西班牙の領土たりしが、米西戰爭の當時獨逸之を買収せしも、唯領土と稱するに止まり、何等産業的に見る可きものなく、僅に椰子の栽培を奨勵し、或は道路を整備せし程度にして、單に政治的領有と稱し得るに過ぎざりし觀あり。島民にはカナカ、チャモロの二種族あり。前者は固有種族にして、後者は歐人との混血種族なり。チャモロ族は洋式の生活を爲し、裸身生活を營むカナカ族に比し生活

の程度遙に高し。其性質共に温厚にしてローマンカトリック教を奉ず。唯天與の餘りに豊富なるが爲め、自然労働を要することなき結果は、概して懶惰たるを免れず。

内地との交通は、横濱（又は神戸、門司）より南航、小笠原島を経て五晝夜にてサイパン、テニアンに達しボナベ（東廻）及びバラオ（西廻）は之より更に三四晝夜の奥地に當る。日本郵船會社の月三回乃至四回の定期船あり。各島間並にバラオ、ニユーギニア間の聯絡には我社有船あり。

サイパン島。三島の内最も内地に近く、最も大なる島にして、廣袤十二方里。中央に山脈あり、達寶頂と稱し、溪流清く樹木繁茂し、景色佳し。總可耕地六千町歩。我社の借地面積約三千町歩此處に本社並に第一製糖工場を設置す。

テニアン島。サイパン島の西に隣し指順の間に在り、約九方里の廣袤を有し、サイパン島の如く高峰なく、二段の卓子耕地をなし居れり。總可耕地約七千町歩にして其全部を借地し、第二製糖工場並に三百餘町歩の牧場を設く。目下工場の擴張中にして

完成の曉は東洋一の製糖工場となる。

ロタ島。サイパン島より西方六十海里の地點に在り。面積約九方里。可耕地約五千町歩。我社借地約千六百町歩。第三製糖工場の建設豫定にして現に築港、道路、鐵道の布設及び甘蔗の試作を爲し一部を牧場として使用しつゝあり。

ボナベ島及バラオ島。前記三島よりは遙に赤道に近く共に面積二十四方里に達する群島中の最大島なるが前記三島と條件を異にするを以て當社は澱粉事業に依つて兩島開拓に着手すべき計劃なり。

#### 四、事業の種類

我社は南洋群島の經濟的開發更に進んでは表南洋の開拓並に南洋文化の建設を目標とするものにして、我社の營む所の事業は畢竟するに之が手段たるに外ならず。其等の内從來最も力を注ぎ又最も成功したるは、製糖事業並に之が附帶事業たる酒精製造

にして、我社は一口に製糖會社として通する模様あるも、若し之れがために前に掲げたる我社の大目標を没却せらるゝ事あらば、それは必ずしも我社の本意にはあらざるなり。我社の營む主要なる事業を列舉すれば左の如し。

#### 一、拓殖移民

#### 一、土地經營、甘蔗栽培其他の農業

#### 一、製糖、酒精製造、製酒、製氷

#### 一、鐵道運輸

#### 一、牧畜、養豚

#### 一、棉花栽培並綿棉

#### 一、水産業

#### 一、澱粉

#### 一、ダマール、コーバル

#### 一、物品販賣

#### 一、前記に附随したる業務

### 五、事業概況

我帝國の領域中臺灣は亞熱帯に在り、赤道直下眞の熱帶圈内にあるものは本群島の外なく、従つて我國産業史上斯る熱帶地域にて行ひたる事業の例なく、我社の企劃し實現する所のは總て新事業新經驗なり。されば之が施設には悉く試験と實行とを同時に兼ね行ふを要し、加ふるに絶海の孤島にして交通に、通信に、頗る不便あるを以て、事業上豫期せざる諸般の障礙に逢着し、大なる辛酸之に伴ふを常とせり。たゞ業に従ふもの不撓不屈、只管國運の發展を庶幾し、努力を重ねたるを以て創業三年にして基礎確立し、今や成績大いに見るべきものあるに至れるは、誠に欣快に堪へざる所なり。

●移住者。島民の人口は至つて稀薄、且つ労働能率低きを以て、此群島に於て事業を起さんとするには労働力の招致を第一要件とす。されば我社は直營事業として之が募集を行ふ。主なる募集地は沖繩、鹿兒島、福島、山形、八丈島の地方にして、心身共に健全なる者を嚴選の上採用す。

移住者は一定の労働に従ふ現業員及人夫と、甘蔗栽培を經營する小作人とに分る。而して此等移住者に對しては、出身地よりの渡航費及支度料等一人に付百圓以内を貸付し、且小作人に對しては着島後更に農舎の建築、農具の購入其他耕作に要する資金を貸付し、又牛車其他の現物貸付をも爲す。人夫は宿舍を支給せらるゝ外一定の日給を受くるものにして、小作人は單身者三町歩、夫婦者五町歩の標準を以て耕地割當を受け獨立の計算に據るものなり。

小作人は現在サイパン島六八一戸（外に社外及島民蔗作人一六九戸）テニアン島六八〇戸あり。尙サイパン、テニアン兩島を併せ、移住者の出身地方別數を示せば左の

如し。

従業員出身地方別内譯表

（家族を含む）（昭和八年一月現在）

地方別	従業員別		農場及工場労働者	合計
	社員	現業員		
沖繩縣下	二二九	九四四	三、七一八	四、八八一
小笠原八丈地方	四七	一八二	二四八	四七七
東北地方	六四	二七九	六〇二	九四五
鹿兒島縣下	二二	九九	一四八	二六九
南洋	二	三八	九	四九
其他	一九七	四七	二四九	四九三
合計	五五一	一、五八九	四、九七四	七、二一四

此等は家族を伴ふ者多數なるを以て、之に家族數を加ふるときは實に一萬五千有餘人を算するに至り、土着島民の約五倍強に相當す。

耕地。サイバン島に於て西村拓殖及南洋殖産時代に開墾せしものは約九百町歩にして、其後千古斧鋏を加へざる密林を開墾したる面積は、サイバン島に於て現在約三千五百町歩、テニアン島に於て現在約四千町歩なり。此内移住者の野菜園其他約三百町歩を除き、他は全部蔗園にして適宜休閑地を設けて輪作制を實施せり。

蔗園。此地方の氣候風土は甘蔗栽培に最も適し、我社は瓜哇種、臺灣種、布哇種、サイバン實生種等に就き數十種を栽培比較研究の結果、殊に此地方に適する優良品種二三を發見し栽培し居れり。此等の品種に更に改良を加ふる爲め、試験地を設けて不斷的試験研究を積みつゝあり。然れども事茲に達する迄には、害虫に對する天敵の輸入等を始め幾多の尊き犠牲を拂ひ努力を重ね來れるなり。

收量は其成績の良好なるものにありては、無肥料にて町當二十萬斤以上に達するも、

平均十一萬斤内外にして、小作人は其平均二割を小作料として會社へ納入し、其他を會社へ賣渡すものにして、我社は此小作人及島民の生産したる甘蔗を買收するには、年々買收價格を協定し、南洋廳の認可を得て決定し、専ら公正を期し、農家の保護を旨とし居れり。

工場。サイバン島に於ける一ケ年の甘蔗生産高約三億萬斤、之が運搬用鐵道五十餘哩、工場は獨逸製一千二百噸工場にして、大正十二年より製糖に着手し、初年は病虫害其他各種の支障に依り、歩留低かりしも次第に成績を上げ、現在は一ケ年三十五萬擔以上を生産し、製品の内市場に於ける格位は臺灣一流會社の優良品と同位なり。多年の辛苦酬いられたりと謂ふべし。

昭和五年初頭完成したるテニアン島工場は、サイバン島工場と略同一能力のものにして、甘蔗運搬用鐵道は三十餘哩に達す。

斯くて兩工場よりの砂糖生産高合計年額七十萬擔以上に上り、近くテニアン工場擴

張の完成に依り、年産糖高は百萬擔に達することゝなる。

・酒・精。大正十五年サイパン糖に新式酒製工場を建設し、製糖副産物たる糖蜜より酒精の蒸溜を開始し、一箇年に九十四度の工業用酒精約八千石を産出するに至れり。製品は大部分内地に輸出し、臺灣一流品と聲價を同じうせり。更に最近燃料用變性酒精を製造して内地に移出し糖蜜の移出も行ふに至れり。

又酒精を原料として燒酎、其他の混成酒を製造し、南洋方面の需要に應じつゝあり。

・牧・牛。耕耘用、運搬用、役牛飼育の目的を以て、テニアン島に約三百町歩の牧場を設け、種牡牛を始め現に約三百頭を飼畜し、昭和六年よりはサイパン島に昭和七年よりはロッタ島にも牧場を設けたり。役牛はサイパン、テニアン兩島を併せ一千五百頭に達す。本島は炎熱に克く耐へ、力強く加ふるに粗食に慣れ、而も牛舎の設備なく放牧の儘にて強壯を維持し得る特種優良のものなるが故に、今後益々増殖を圖る豫定なり。養豚。農家の副業として最も格好なるを以て、我社は直營とせず、小作人に之が飼

育を奨励しつゝあり。現在約五千頭、今後益々繁殖する見込なり。

棉花其他。蕉園休閒地及び蔗作に適せざる地域に於ては落花生、甘藷、棉花、鳳梨、パパイヤ、芭麻、アケシヤ等の栽培並に試作をなしつゝあり。

物資の供給。我社の移住者並に其の家族一萬五千餘人に對する米、味噌、醬油等の生活必需品は、主として之を内地より移入するを要す。然るに交通不便なるため、時に射利的價格を現し、或は其の購買に不便の場合多し。従つて従業者の生活に脅威を與ふる事あるを以て、我社は常に數箇月分の米鹽を貯藏し、其他の諸雜貨と共に安價に供給すべく努めつゝあり。其の一箇月販賣高は三萬五千圓乃至四萬五千圓にして、移住者は此設備により多大の便利を享け居れり。

## 六、社會的施設

・教・育。公立學校の設置せらるゝ以前にありては、我社に於て教育所を設け、教師を

招聘し、教育品を備へ、移住者の子弟に義務教育を授けたり。

現在はサイバン島に四個の公立小學校あり、我社従業員の子弟四百五十餘名在學し、全員の八割を占む。チニアン島には公立小學校の完成に至る迄、我社の教育所を以て子弟の教育に充てつゝありしも、最近公立小學校三個の完成を見るに至れり。尙生徒の通學には社有鐵道無賃乗車の便を與ふ。

衛生。表南洋方面に於けるが如き惡性のマラリヤは絶無なるのみならず、所謂風土病と稱するものなく、唯降雨期に於ける脚氣と、平時多少の胃腸疾患あり、此原因は主として住宅、飲料水の不良、並に蔬菜缺乏に在るが故に、當社は完全なる住宅の設備をなし、水槽を作り、特に蔬菜の栽培を奨勵せしめ大いに罹病者を減じ、一般に健康の増進せし事を認むるに至れり。又我社は衛生用、醫療用とを兼ね、製氷工場を経営して内外に安價に製氷を供給し來りたるが需要の増進に伴ひ最近之を獨立の會社として新工場を建設せり。

サイバン島には設備の整ひたる官立病院あれども、特に我社は輕症又は外傷患者をして、炎天の下遠く此の官立病院に赴くの勞を省かしめ又急病者の場合に應ずるために、サイバン島並ニチニアン島に醫務室並に療養所を設け、醫師、藥劑師、產婆、看護婦を置き藥品其他レントゲン等の醫療機具を備へ、従業員並に家族の治療を行ひ、或は往診をも爲し、偏に保健に意を注ぐと共に、他方勞働能率の向上に務め居れり。現在社醫五名を配置す。

慰安。内地を離るゝこと千數百海里的の海島なれば、慰安の乏しき事は誠に遺憾なれども、我社は屢々各部落に活動寫眞の巡回映寫を試み、或は一年數回慰安會を開き、餘興、藝應又は懸賞競技等を催し、島の祭日として一日の愉快を盡さしむ。又工場方面に對しては、野球、庭球、劍道、柔道、弓術等を奨勵する等、體育並に品性の向上に資せんと努めつゝあり。又銃獵、魚釣り、網漁、海水浴等は年中隨時之を樂しむことを得。又ラヂオ受信機を設けて、直接内地のニュース、音楽等を傳ふるの外、此の

ニューズを基としてラヂオ新聞を發行し、種々の記事を掲げ移民を善導し居れり。

## 七、事業の將來

我社の經營は前述の如く三島の内サイパン島並にテニアン島の一部に手を染めたるのみにして、前途尙頗る多望なるものあるなり。製糖の方面にありてはサイパン、テニアン兩工場の外、近くテニアン工場の擴張、ロタ工場の建設を控へ產糖高は倍加するに至るべし。尙製糖工場の新設擴張は、副産物たる糖蜜の増産を來し、従つて酒精事業の發展を伴ふ事は言を俟たざる所なり。

棉作の有望なることは、數年に亘る試作に依り確證を得たれども、摘花期に於ける勞力問題に悩み、未だ大規模の經營に着手するに至らざれども、今後移住者の人口も増加し、其婦女子を以て之に當らしむることを得るに至らば會社、移住者雙方の利益尠なかるべしと信す。

牧牛、食豚は今後益々發展すべく、蔗園に於ける間作物、輪作物の研究にも力を注ぎ、以て農家の福利を計り居れり。

我社は移住者の生活を安固にし、且兎もすれば索莫に陥り易き殖民地生活に潤ひあらしむべく絶えず努力を重ね來れるも、今後は益々此方面に種々の施設を講じ、移住者の福利増進に努むる覺悟なり。

尙社運の發展に伴ひ餘力を以て漸次各方面の事業を經營し群島開發の使命を益々完全に實現する意嚮にして其内製氷、漁業、椰子、カストル油、鳳梨等は既に着手或は試験の過程に入り何れも將來を嚮望せしむ。

昭和六年當社は關領ニューギニアに於て八萬エーカーに達する權利地を買收し、先づデマール及コーバルと稱する塗料樹脂の採取事業を經營するに至れり。ニューギニアは世界に於て全然未開拓の大島なれば發展の餘地は極めて廣大なり。

## 八、本群島の産物と内地との經濟關係

本群島の産物は、我海軍の占領以前に於て、既に獨逸系の商會に依り多少我國に輸入せられたるも、其額は未だ九十萬圓に達せず、頗る微々たるものにして、其主なるものを掲げれば

コ ブ ラ	年額約	六、〇〇〇噸	價格	八十萬圓
海 參	同	五六〇噸	同	一 萬圓
高 瀬 貝	同	一〇〇噸	同	五 萬圓
計				八十六萬圓

にして極めて振はず、而も此等の産物は外國貿易品として國內の正貨を海外に送り出したるものなり。然るを委任統治となるに及び、南洋廳の設置以來は、轉じて總て邦人商會により之を取扱ふこととなり、正貨の流出を阻止したるのみならず、今日迄經

濟的利用價值大いに疑問視せられ居りたる本群島中より、我社が拓殖製糖の事業に成功して以來、各種事業の興起を促し、年額千五百萬圓以上の産物を内地に移出するに至り、而も我社の發展に連れ、將來益々増加せんとするの趨勢にあり。即ち、

農産、林産、水産物	百 萬 圓
コ ブ ラ	百 十 萬 圓
燐 礦(南洋廳直營)	八十五萬圓
砂 糖	千二百萬圓
酒 精	三十萬圓
糖 蜜	二十五萬圓
計	千五百五十萬圓

刻下我國は急激なる人口増加に苦み、生活難は彌々峻烈味を加へ、思想は益々惡化し、過剰人口の調節を計らざるべからざる秋に當り、我社は既に現狀に於ても一萬數

千人の移民を收容し、更に將來豫定事業の進展に伴ひ、三四萬人の新移住者を植うる事を得るは、正に過剰人口調節上喜ぶべき事なりと信するなり。

尙南洋廳は管内糖業に力を致され、我社は既に現在に於ても年額三百五十萬圓内外の砂糖出港税を納むる迄に至りたるも、近き將來に於ては其額四百萬圓以上にも達すべく、斯くて我社の經營する處、微力乍ら我經濟界に貢獻なしとせざるは、欣快に耐へざる處なり。

### 九、重役及幹部社員

我社の重役並に幹部社員左の如し

取締役社長	松 江 春 次
常務取締役	村 田 命 稔
取締役	松 井 英 夫

同

東京事務所  
業務部長

色 部

米 作

同

東京事務所  
糖所長

水 野

恒 路

監 査 役

山 田

藤 俊 平

同

加 藤

平 稔

サイバン製糖所長

藤 田

達 一

東京事務所  
商務部長

布 施

保 次

本 社

東京事務所

南洋廳下サイバン島チャランカノア  
東京市麴町區内山下町一ノ一東洋ビルデング内

電話銀座 〇七 代表二一八六番  
二一八〇番 ⑤



